おごせ教育 Pick up

越生小学校

6月8日、越生梅林にて梅もぎ体験をさせてもらいました。この日が初めての梅もぎという児童が大半でしたが、鈴なりに実っている梅を前に大喜び。収穫した梅の一部は総合的な学習の時間に梅ジュースを作ります。

梅園小学校

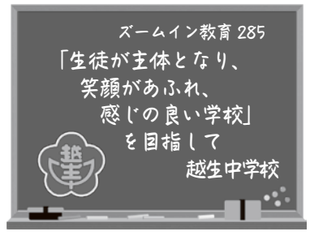
6月14日、1～3年生が梅干しづくり体験教室を行いました。梅のへたを竹串で取り除いたり、樽に塩と梅を交互に入れてつけたり、真剣に取り組むことができました。最後にみんなで「おいしくなーれ!」とおまじないをしてふたをしました。できあがりが楽しみです。

越生中学校

6月17日から入間北部学校総合体育大会が実施され、全ての運動部が『越中生としての自信と誇り』を持って戦い抜きました。野球部が16年ぶりの優勝、男子バスケット部が3位となり、野球部・陸上部5人・水泳競技3人が県大会に進みました。

おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。



越生中学校は、学校教育目標「自立の力を育む」のもと、「生徒が主体となり、笑顔があふれ、感じのよい学校」を目指して、生徒や家庭・地域と教職員とが一丸となり、越生町の未来を担う人材の育成に全力を注いでいます。

今年の重点目標と主な取組

1【生徒の学力向上】

少人数による学習で生徒一人一人に寄り添った授業を行うとともに、一人一台のパソコンを効果的に活用し、主体的に学習に取り組む生徒を育てます。また、英語教育に力を入れ、英検に積極的に挑戦します。

2【豊かな心の育成】

道徳の授業を充実させるとともに、生徒一人一人との対話を大切にし、相手を思いやる心をもった生徒を育てます。

3【3つのあの徹底】

「あいさつ・あしもと・あとしまつ」をとおして、基本的な生活習慣を身につけた生徒を育てます。

4【安心で安全な学校】

ヘルメットの着用など交通安全を意識し、自分の身を自分で守れる生徒を育成します。また、情報モラル教育に力を入れ、SNS等の適切な使用ができる生徒を育てます。

5【家庭・地域との連携】

定期的な学校だよりの発行やホームページの更新をとおして、学校からの情報発信を積極的に行い、家庭・地域に開かれた学校づくりを進めます。

木の香漂う校舎や新しい体育館と武道場、給食ホールなど、県内随一の教育環境を活かして「生徒が主体の越生中」を目指します。

ご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

越生浪漫 No.150

越生は町ごと博物館①

難読地名「越生」

オゴセの名が歴史の舞台に初めて登場したのは、鎌倉時代のことです。鎌倉幕府が編纂した歴史書『吾妻鏡』の文治5年（1189）の条に、「**小越**右馬允有弘」が源頼朝に従って、奥州藤原泰衡を征伐するため鎌倉を出発したことが記されています。有弘の父・有行は、越生氏の祖にあたる人物です（『武蔵七党系図』）。承元2年（1208）、鎌倉幕府は有弘が子の有高に譲った「武蔵国吾那・春原広瀬郷・越生郷」の所領を安堵（領地の所有権を認めたこと）しています。越生郷と越生氏一族の関係性が分かる地名「越生」の初出史料です（『法恩寺年譜』以降『年譜』と記す）。

また、「**おこせ**の馬丸」や「**ヲコセノ**入道」、「**生越**小次郎有宗」などと表記されている日記や伝記もあります。

江戸時代には越生は17ヶ村に分けられていました。明治22年（1888）の町村制施行で9ヶ村が合併して「越生町」に、8ヶ村が合併して「梅園村」が成立しました。元の17ヶ村が現在の大字○○に相当します。昭和30年（1955）、両町村が合併して越生町が誕生しました。

今市村（大字越生）

越生郷の本村で、明治6年に「越生村」に改名されました。相州（神奈川県）及び八王子辺りと上州（群馬県）方面を結ぶ宿場であり、月に6回開かれる二七の市は、近郷の村々から商人や商品が集まる物産の集散地として賑わいました。幕末以降は、絹取引で財を成した生絹商や生糸商、旅館、料理屋、芸者屋、人力車屋などが軒を連ねました。また越生警察署（西入間警察署の前身）や法務局、郵便局といった公共施設が整い、都市化が進められました。

二七の市の様子（中央橋のたもとの解説版に掲載）

越生小学校に県内でも稀な3年制の高等科が置かれ、周辺町村に先駆けて、興行・講演などを行うホール（労働会館）が建設されるなど教育文化面の充実も図られました。

上野村（大字上野）

室町時代の応永5年（1398）の寄進状に名が見える古い村です（『年譜』）。当地には「越辺川の淵の上に当たり、昔は野原だったので「上野」という名がついた」という伝承が残っています。江戸時代、村は上分下分に分けられて支配されていました。田畑の耕地面積は最も広く、石高も越生随一でした。

江戸の庶民の間で流行した富士山信仰は、越生地方にも到来し、町内各所に富士塚や石造物がのこっています。

富士講の碑（越生町再発見100ポイントに選定）

越生交番の近くには、野澤五左衛門の富士登山三十三度大願成就の記念碑が立っています。西の山地には、富士山に見立てた「西山富士山」が造られています。これは富士講の先達が、実際に富士登山できない人のために造営したものです。

如意村（大字如意）

「村名の起りは古より如意寺建る地なればだちに其名となせり」（『新編武蔵風土記稿』）と記される如意寺は、明治初期に廃寺となりましたが、本尊の如意輪観音像（県指定文化財）は、檀徒によって守り伝えられています。

和田村（大字西和田）

明治12年の入間郡発足の際に、郡内に同名の村（現在の坂戸市東和田）があったため、西和田村と改称されました。越生郷の惣鎮守・春日神社があり、和田・大谷・今市村から馬が出て、流鏑馬の行事が行われていました。

大谷村（大字大谷）

応永18年の寄進状に名が見える村です（『年譜』）。用水源である8つの溜池の整備は中世まで遡ると推測され、江戸時代には郷内最大の水田地帯に発展しました。

大亀沼一帯は明治初めに編纂された地誌『武蔵国郡村誌』で、万葉集の東歌に詠われた「於保屋我波良」に比定されています。

春日神社の流鏑馬（春日神社の解説版に掲載）